

取扱説明書



TD-07

DRUM SOUND MODULE

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

目次

ドラムについて知ろう.....	2
ドラム・セットの構成.....	2
ドラム奏法の基本.....	3
クイック・スタート.....	5
各部の名称とはたらき.....	5
周辺機器を接続する.....	6
電源を入れる／切る.....	6
演奏する.....	7
ドラム・キットを選ぶ.....	7
メトロノームに合わせて叩く.....	7
コーチ・モードで練習する.....	8
練習メニューを選ぶ.....	8
ビートに合わせて正確に叩く (TIME CHECK) ..	8
身体でテンポを覚える (QUIET COUNT)	9
テンポの変化に合わせて叩く (AUTO UP/DOWN)	9
リズムの変化に合わせて叩く (CHANGE UP) 10	
スマートフォンの曲に合わせて演奏する ...	11
MIX IN 端子にケーブルを接続する場合.....	11
Bluetooth で無線接続する場合.....	11
ドラム・キットをカスタマイズする.....	12
各パッドの音色を変更する (INSTRUMENT) .	13
ドラム・キットの音量を調節する (KIT VOLUME).....	13
音色のアタックとリリースを調節する (TRANSIENT).....	14
パッドごとの音質を調節する (PAD EQ)	14

ドラム・キットのステレオ感を調節する (OVERHEAD).....	15
ドラム・キットの残響音を調節する (ROOM) .	15
ドラム・キットにエフェクトをかける (MFX) ...	16
ドラム・キットの名前を変更する (KIT NAME) 16	
MIDI ノート・ナンバーを設定する (MIDI NOTE).....	16
ドラム・キットをコピーする (KIT COPY)	17
ドラム・キットの設定をリセットする (KIT RESET).....	17

パソコンやスマートフォンのアプリと連携して使う.....	18
パソコンのソフトウェアと連携して使う.....	18
スマートフォンのアプリと連携して使う.....	18

詳細設定をする (SETUP).....	19
パッドの設定をする.....	19
MIDI の設定をする.....	24
システムの設定をする.....	24
バージョン情報を表示させる.....	25
工場出荷時の設定に戻す.....	25

故障かな?と思ったら.....	26
------------------------	-----------

安全上のご注意.....	28
---------------------	-----------

使用上のご注意.....	28
---------------------	-----------

主な仕様.....	29
------------------	-----------

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」と「使用上のご注意」（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書 (P.28)）をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

ドラムについて知ろう

ドラム・セットの構成

ドラム・セットの基本的な用語を説明します。

バス・ドラム／キック・ペダル

バス・ドラムは、ドラム・セットの中で最も大きなドラムです。キック・ペダルを踏んで演奏します。

※ キック・ペダルは市販のものをお使いください。

スネア

ドラム・セットの中で音の中心となるドラムです。

ハイハット／ハイハット・ペダル

2枚のシンバルが上下対になっています。ハイハット・ペダルを踏むことで、ハイハットのオープンやクローズができます。

※ TD-07KV(例)では、シンバル・パッド1枚です。

タム (タム 1、タム 2)

通常、バス・ドラムの上に設置します。

フロア・タム (タム 3)

バス・タムと呼ばれることもあります。床に設置します。

ライド

リズムの基本的なビートを刻みます。通常右側に設置します。

クラッシュ

ライドより小さなシンバルで、強いアクセントをつけるときに使います。

※ TD-07KV(例)では、ライドと同じサイズです。

アコースティック・ドラム



Vドラム (例: TD-07KV)



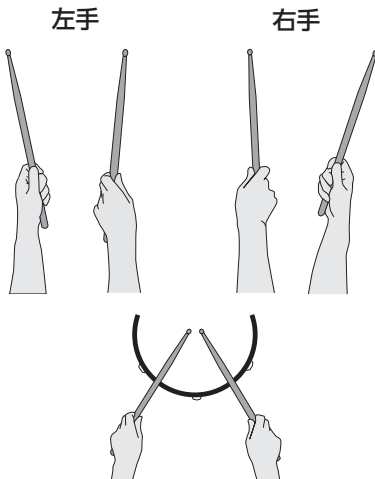
ドラム奏法の基本

ドラム・セットは、両手、両足を使って演奏します。

ここではスティックの持ちかたやドラムの叩きかた、ペダルの踏みかたなどを紹介します。

スティックの持ちかた

最も一般的な「マッチド・グリップ」を紹介します。

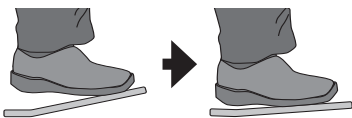


キック・ペダルの踏みかた

キック・ペダルには「ヒール・アップ奏法」と「ヒール・ダウン奏法」の2種類の踏みかたがあります。

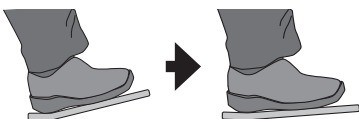
ヒール・アップ奏法

かかとを浮かせてキック・ペダルを踏む奏法です。かかとを上げた状態から脚全体を落とすようにペダルを踏みます。脚全体の重みをペダルに掛けることができるので、ヒール・ダウンより強い音が出しやすくなります。ロックやポップスで多用されます。



ヒール・ダウン奏法

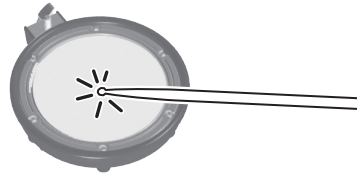
かかとからつま先まで、キック・ペダルにべったりとつけて踏む奏法です。くるぶしの関節を使ってつま先でペダルを踏みます。繊細な音量のコントロールがしやすく、ジャズやボサノバなどで多用されます。



スネアの奏法

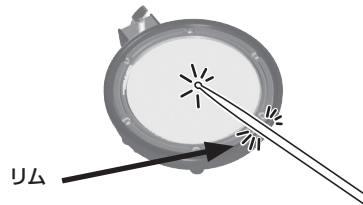
ヘッド・ショット

パッドの打面を叩く、最も一般的な奏法です。



リム・ショット

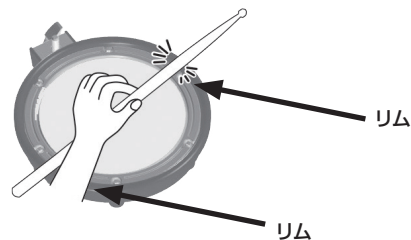
ヘッドとリムを同時に叩きます。ヘッド・ショット時とは異なる音色（リム音色）が鳴ります。



クロス・スティック奏法

リムのみを叩きます。

スネアのリム音色では、リムを叩く強さによってリムの音色が切り替わります。弱く叩くとクロス・スティックの音、強く叩くとリム・ショットの音が鳴ります。



→ クロス・スティック奏法を使う場合は、XStickSens (P.19) を「OFF」以外に設定してください。

※ クロス・スティック奏法で演奏するときは、ヘッドに手を置かないでください。ヘッドに手を置くとクロス・スティック奏法ができない場合があります。

※ 専用接続ケーブルの「SN」に接続したパッドのみ有効です。

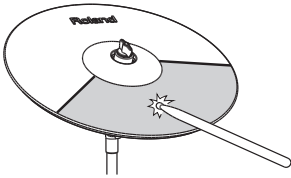
※ 一部のスネア音色では、音色の鳴らし分けができない場合があります。

ドラムについて知ろう

シンバルの奏法

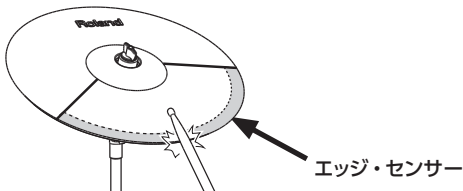
ボウ・ショット

シンバルの打面を叩く、最も一般的な奏法です。



エッジ・ショット

シンバルの端をスティックのショルダーで叩く奏法です。
(図のエッジ・センサーの位置を叩きます。)

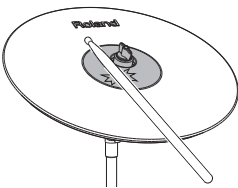


※ ハイハットでも、ボウ・ショット、エッジ・ショットが可能
です。

ベル・ショット (ライドのみ)

ベルを叩く奏法です。

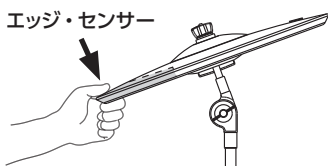
- ※ ライド・3 ウェイ・トリガーに対応したパッドを使用してください。
- ※ CR2Usage (P.19) を「RDB」に設定してください。
- ※ スティックのショルダーで、やや強く叩いてください。



チョーク奏法

シンバルを叩いたあとにエッジ付近を手でチョークする(つかむ)と、音が止まります。

- ※ 図のエッジ・センサーの位置を手でチョークしてください。センサーのない部分をチョークしても音は止まりません。



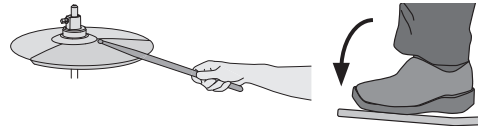
ハイハットの奏法

アコースティック・ドラムは、ハイハット・ペダルを操作して2枚のシンバルを開閉できます。

ハイハット・ペダルを踏み込むと、2枚のシンバルが密着した状態(クローズ)になります。ハイハット・ペダルを離すと、2枚のシンバルが離れた状態(オープン)になります。

クローズ

ハイハット・ペダルを強く踏み込んだ状態で、パッドをスティックで叩きます。「チツ」と短い音になります。

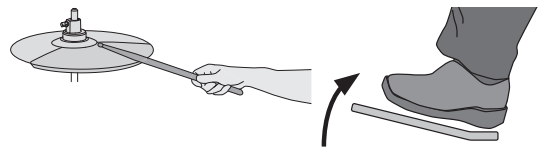


ハーフ・オープン

ハイハット・ペダルを弱く踏んだ状態で、パッドをスティックで叩きます。「チー」と少し長い音になります。

オープン

ハイハット・ペダルから完全に足を離した状態で、パッドをスティックで叩きます。叩くとハーフ・オープンよりさらに長い音になります。



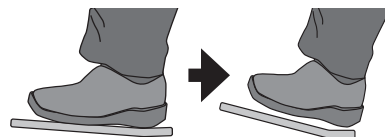
フット・クローズ

スティックを使わずハイハット・ペダルだけを踏み込みます。クローズより柔らかな短い音になります。タイトな音で、リズム・キープに有用です。



フット・スプラッシュ

スティックを使わずハイハット・ペダルを蹴る要領で、踏み込まずにすぐに足を離します。アコースティックのハイハットで2枚のシンバルを瞬間的にぶつける状態です。オープンより柔らかな音で長い音になります。



クイック・スタート

各部の名称とはたらき

ディスプレイ

操作に応じて、さまざまな情報を表示します。
電源を入れてしばらくすると、ドラム・キット画面（基本画面）が表示されます。

- ➡ 「ドラム・キットを選ぶ」 (P.7)

[*] (Bluetooth) ボタン

スマートフォンなどと無線接続して、スマートフォンの曲を再生しながら演奏したり、スマートフォンのアプリと一緒に使ったりすることができます。

- ➡ 「スマートフォンの曲に合わせて演奏する」 (P.11)
- ➡ 「パソコンやスマートフォンのアプリと連携して使う」 (P.18)

[⚙] (SETUP) ボタン

パッドの感度調節や MIDI の設定、ファクトリー・リセットなど、本機の詳細設定をします。

- ➡ 「詳細設定をする (SETUP)」 (P.19)

[🔌] (電源) ボタン

電源をオン／オフします。

- ➡ 「電源を入れる／切る」 (P.6)

[◀▶] ボタン

画面の前のページ／次のページを表示させます。

[↵] (EXIT) ボタン

操作をキャンセルします。
または、前の画面に戻ります。

[↵] (ENTER) ボタン

操作や値を決定します。
または、次の画面に進みます。

[🥁] (ドラム・キット) ボタン

ドラム・キット画面（基本画面）を表示させます。
また、他の画面から基本画面に戻るときに押します。

- ➡ 「ドラム・キットを選ぶ」 (P.7)

ダイヤル

ドラム・キット画面（基本画面）で、ダイヤルを回してドラム・セットの音（ドラム・キット）を選びます。
また、[◀▶] ボタンで選んだ項目の値を変えます。

[🔊] (音量) ボタン

音量を 30 段階で調節します。
スマートフォンなどと本機を無線接続した場合は、[↵] (ENTER) ボタンを押しながら [🔊] (音量) ボタンを押すと、本機からスマートフォンの音量を調節できます。

[👤] (COACH) ボタン

コーチ・メニューで、演奏レベルに合わせた練習ができます。

- ➡ 「コーチ・モードで練習する (COACH)」 (P.8)

[🎵] (メトロノーム) ボタン

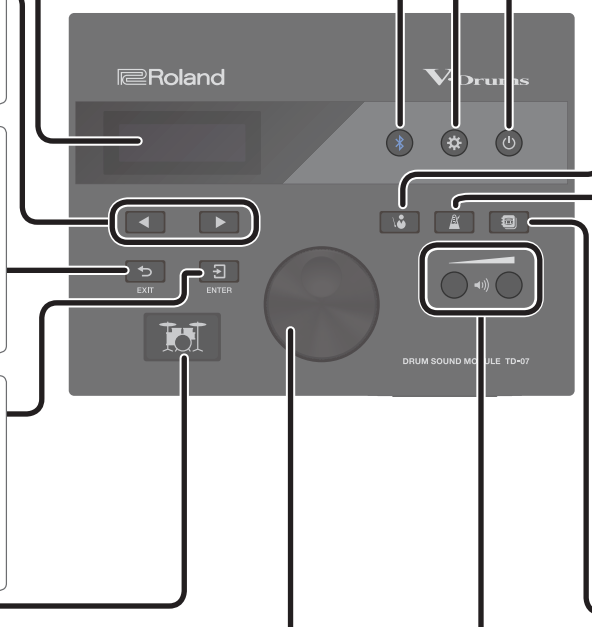
メトロノームを鳴らしたり、テンポや拍子などの設定を変えたりします。テンポに合わせてボタンが点滅します。

- ➡ 「メトロノームに合わせて叩く」 (P.7)

[🎛] (キット・エディット) ボタン

パッドの音色を選んだり、選んだ音色にエフェクトをかけたりすることができます。

- ➡ 「ドラム・キットをカスタマイズする (KIT EDIT)」 (P.12)



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

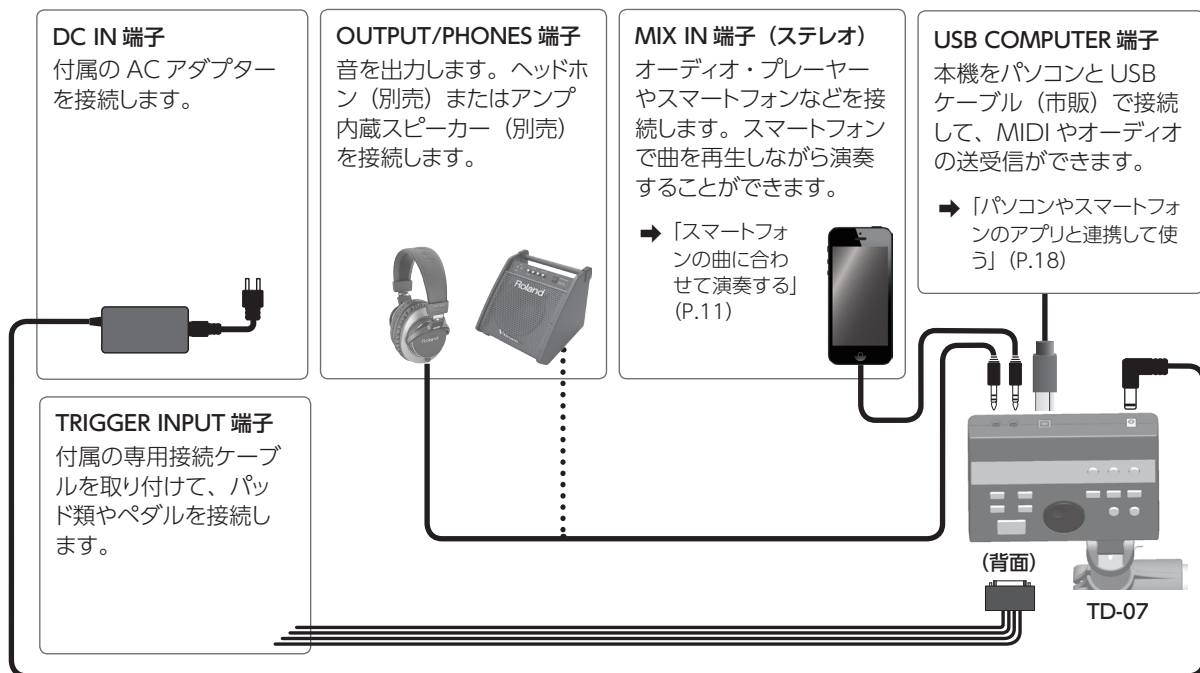
Español

Português

Nederlands

周辺機器を接続する

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



電源を入れる／切る

電源を入れる

1. 本機にヘッドホン（別売）、またはアンプ内蔵スピーカー（別売）を接続します。

※ アンプ内蔵スピーカーを接続した場合は、アンプ内蔵スピーカーの音量を最小にします。

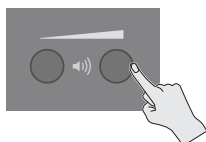
2. [⏻]（電源）ボタンを押します。

本機の電源が入ります。



3. アンプ内蔵スピーカーを接続した場合は、アンプ内蔵スピーカーの電源を入れ、音量を調節します。

4. 本機の [🔊]（音量）ボタンで音量を調節します。



電源を切る

1. 本機にアンプ内蔵スピーカーを接続した場合は、アンプ内蔵スピーカーの音量を最小にして電源を切ります。

2. 本機の [⏻]（電源）ボタンを長押しします。
本機の電源が切れます。

※ 必ず [⏻]（電源）ボタンを押して、電源を切るようにしてください。電源コードが抜けるなどして電源が切れた場合は、設定が正しく保存されないことがあります。

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください（P.24）。

注意

電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

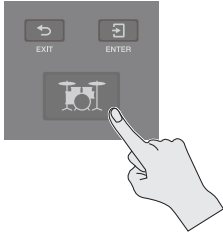
演奏する

ドラムは叩けば音が出る、誰にでも簡単に始められる楽しい楽器です。内蔵されているさまざまな音色で、ドラムの演奏を始めましょう。

ドラム・キットを選ぶ

「ドラム・キット」とは、各パッドに音色が割り当てられたセットのことです。

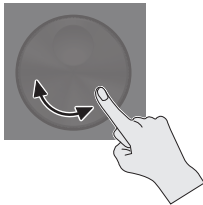
1. [F1] (ドラム・キット) ボタンを押します。



ドラム・キット画面が表示されます。



2. ダイヤルで、ドラム・キットを選びます。



メモ

全ドラム・キットのリストについては、以下の QR コードから『TD-07 データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

http://roland.cm/td-07_om



3. パッドを叩いて演奏します。

メトロノームに合わせて叩く

メトロノームを鳴らして、演奏することができます。

1. [F2] (メトロノーム) ボタンを押します。

メトロノームがオンになり、メトロノームのテンポに合わせてボタンが点滅します。



メモ

[F3] (ENTER) ボタンを押しながら [F2] (メトロノーム) ボタンを押して、画面を変えずにメトロノームをオン/オフすることもできます。

2. もう一度 [F2] (メトロノーム) ボタンを押して、メトロノームを止めます。

メトロノームの鳴らしかたを変える

1. メトロノーム画面で、[F4] [F5] ボタンを使って設定したい項目 (パラメーター) を選びます。

2. ダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
ON/OFF	ON, OFF	メトロノームのオン/オフを切り替えます。
Tempo	20 ~ 260 (bpm)	テンポを設定します。
Level	-INF ~ +6.0dB	音量を設定します。
Beat	1 ~ 9 (拍子)	拍子を設定します。
Rhythm	♪ (2 分音符)	リズム・タイプを設定します。
	♪ (4 分音符)	
	♪ (8 分音符)	
	♪ (8 分 3 連符)	
	♪ (16 分音符)	
Pan	L30 ~ CTR ~ R30	定位を設定します。
Sound	TYPE1 ~ TYPE15	音色/パターンを設定します。
LED Sync	ON, OFF	テンポに合わせて [F2] (メトロノーム) ボタンを点滅させるかどうかを設定します。

3. [F1] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

コーチ・モードで練習する (COACH)

本機は、練習の効果を最大限に引き出す「コーチ・モード」を搭載しています。4つのメニュー「TIME CHECK」「QUIET COUNT」「AUTO UP/DOWN」「CHANGE UP」があり、スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛え、タイミングをうまくとる練習ができます。

練習メニューを選ぶ

1. [👤] (コーチ) ボタンを押します。

COACH 画面が表示されます。



2. [◀] [▶] ボタンで練習メニューを選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

練習メニューの内容については、次項をご覧ください。

ビートに合わせて正確に叩く (TIME CHECK)

メトロノームに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習です。

1. TIME CHECK 画面で、[↵] (ENTER) ボタンを押して練習を開始します。

スタートすると2小節のカウント・インが入ります。

メモ

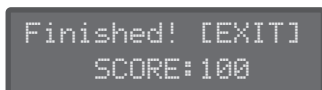
練習を途中で終了するときは、[EXIT] ボタンを押します。

2. メトロノームに合わせてパッドを叩きます。

パッドを叩いたタイミングが、メトロノームに合っているかどうかを、画面に表示します。



設定した小節数が経つと終了し、打撃タイミングが評価されます。



※ 叩いたタイミングが大きくズレると、正確に判定できないことがあります。

3. [EXIT] (EXIT) ボタンを押して、終了します。

TIME CHECK の設定をする

評価するパッドや採点する小節数などを変更することができます。

1. TIME CHECK 画面で、[◀] [▶] ボタンを使って設定したい項目 (パラメーター) を選びます。

2. ダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Score		採点の結果を、画面に表示させるかどうかを設定します。
	OFF	採点しません。タイミングのチェックだけをします。
	4、8、16、32 (小節)	採点の結果を画面に表示します。 採点する小節数を設定します。
Grade		採点基準を設定します。
	EASY	標準
	HARD	より厳しくタイミングをチェックします。
PAD	KIK、SNR、TOM、HH、RID、CYM	評価に使用するパッドを選びます。
Tempo	20 ~ 260 (bpm)	テンポを設定します。

3. [🥁] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

身体でテンポを覚える (QUIET COUNT)

身体でテンポを覚えるための練習です。
最初の数小節はメトロノームが鳴りますが、次の数小節は
鳴りません。停止するまで、この周期を繰り返します。

1. QUIET COUNT 画面で、[↵] (ENTER) ボタンを押して練習を開始します。

メモ

練習を途中で終了するときは、[↵] (EXIT) ボタンを押します。

2. メトロノームに合わせてパッドを叩きます。

最初の数小節はメトロノームが鳴ります。メトロノーム
が鳴る最後の小節になると、画面に「Ready..」と表示
されます。

♩=120 1-3
Ready..

メトロノームが鳴り終わると、画面の表示が「QUIET!!」
に変わります。この間もパッドを叩き続けます。

♩=120 4-*
QUIET!!

QUIET 区間のあと、打撃タイミングが評価されます。

♩=120 1-2
SCORE: 100

3. [↵] (EXIT) ボタンを押して、終了します。

QUIET COUNT の設定をする

メトロノームを鳴らす小節数と鳴らさない小節数などの設
定をします。

1. QUIET COUNT 画面で、[◀] [▶] ボタンを 使って設定したい項目 (パラメーター) を選び ます。

2. ダイアルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Measures	2、4、8、 16 (小節)	「メトロノーム発音」と「QUIET」 の繰り返し区間の長さ (小節) を設定します。

パラメーター	設定値	説明
Quiet		Measures で設定した小節のうち、QUIET にする小節の長さを設定します。
	RANDOM	QUIET の区間が毎回ランダム に設定されます。
	1、2、4	設定した長さが QUIET 区間に 設定されます。 ※ Measures で設定した値の 半分より大きい値を設定する ことはできません。
Tempo	20 ~ 260 (bpm)	テンポを設定します。

3. [↵] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・ キット画面に戻ります。

テンポの変化に合わせて叩く (AUTO UP/DOWN)

持久力を高める練習です。メトロノームのテンポを徐々に
上げ下げします。テンポが 1 ずつ上がっていき、テンポ
の上限値になったらテンポが 1 ずつ下がって最初のテンポ
に戻ります。このテンポ変化を繰り返します。

1. AUTO UP/DOWN 画面で、[↵] (ENTER) ボタンを押して練習を開始します。

スタートすると 2 小節のカウント・インが入ります。

メモ

練習を途中で終了するときは、[↵] (EXIT) ボタンを
押します。

2. メトロノームに合わせてパッドを叩きます。

画面右下に残り時間が表示されます。

♩=121 1-4
↳ MAX260 3

※ Auto Up/Down では、現在のテンポは変更できま
せん。

※ 現在のテンポ設定値が、テンポ下限値になります。

設定した時間が経つと終了し、打撃タイミングが評価
されます。

Finished! [EXIT]
SCORE: 100

3. [↵] (EXIT) ボタンを押して、終了します。

コーチ・モードで練習する(COACH)

AUTO UP/DOWN の設定をする

練習時間の長さ、テンポの上限値/下限値を設定します。

1. AUTO UP/DOWN 画面で、[◀] [▶] ボタンを使って設定したい項目 (パラメーター) を選びます。

2. ダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
	時間を選びます。	
Duration	1、3、5、10、15 MIN	練習の所要時間 (分) を選びます。
MaxTempo	21 ~ 260 (bpm)	テンポの上限値を設定します。 ※ 現在の Tempo より大きい値にしか設定できません。
Tempo	20 ~ 260 (bpm)	テンポの下限値を設定します。

3. [🥁] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

リズムの変化に合わせて叩く (CHANGE UP)

メトロノームのリズム・タイプが 2 小節ごとに変化していきます。2 分音符から始まって徐々に音符が細かくなっていき、また 2 分音符まで戻るといったリズムの変化を繰り返します。

1. CHANGE UP 画面で、[↵] (ENTER) ボタンを押して開始します。

スタートすると 2 小節のカウント・インが入ります。

メモ

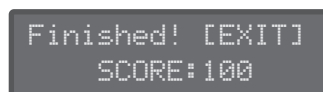
練習を途中で終了するときは、[↵] (EXIT) ボタンを押します。

2. メトロノームに合わせてパッドを叩きます。

練習中は画面にテンポとリズム・タイプが表示されます。また、画面右下に残り時間が表示されます。



設定した時間が経つと終了し、打撃タイミングが評価されます。



3. [↵] (EXIT) ボタンを押して、終了します。

CHANGE UP の設定をする

練習時間の長さ、テンポを設定します。

1. CHANGE UP 画面で、[◀] [▶] ボタンを使って設定したい項目 (パラメーター) を選びます。

2. ダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
	時間を選びます。	
Duration	1、3、5、10、15 MIN	練習の所要時間 (分) を選びます。
Tempo	20 ~ 260 (bpm)	テンポを設定します。

3. [🥁] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

スマートフォンの曲に合わせて演奏する

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器（以下「スマートフォン」と呼びます）で再生する曲に合わせて、ドラム演奏を楽しむことができます。

MIX IN 端子にケーブルを接続する場合

1. 市販のステレオ・ミニプラグ・ケーブルを使って、本機の MIX IN 端子にスマートフォンを接続します (P.6)。
2. スマートフォンの曲を再生します。
3. 曲の音量は、スマートフォン側で調節します。

Bluetooth で無線接続する場合

スマートフォンと本機を Bluetooth で無線接続するには、スマートフォンに本機を登録する（お互いを認証する）ための「ペアリング」が必要です。



ここでは、例として iPhone を使った設定方法を紹介します。

※ 本機とのペアリングが済んだスマートフォンは、再度ペアリングする必要はありません。「ペアリング済みのスマートフォンを接続する」(P.11) の手順をご覧ください。

スマートフォンを登録する（ペアリング）

1. 接続したいスマートフォンを、本機周辺に置きます。
2. [⌘] (Bluetooth) ボタンを押します。
3. [◀] [▶] ボタンで「PAIRING」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

本機がペアリングを開始し、[⌘] (Bluetooth) ボタンが点滅します。

メモ

ペアリングをやめる場合は、[↵] (EXIT) ボタンを押します。

4. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。



5. スマートフォンの Bluetooth 「デバイス」 欄に表示される「TD-07 AUDIO」をタップします。

本機とスマートフォンがペアリングされます。ペアリングが完了すると、以下のように表示されます。

スマートフォン	「自分のデバイス」欄に「TD-07 AUDIO」が追加され、「接続済み」と表示される
TD-07	画面右上に「A」と表示され、[⌘] (Bluetooth) ボタンが青点灯します。 

6. [⌘] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

スマートフォンの曲を再生する

注意

非常に大きい音で再生される場合があるため、あらかじめスマートフォン側の音量を絞ってください。

スマートフォンで曲を再生すると、本機に接続したヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーから音が鳴ります。

メモ

曲の音量は、スマートフォン側で調節してください。本機の [↵] (ENTER) ボタンを押しながら [⌘] (音量) ボタンを押して、調節することもできます。

※ 本機からの操作でスマートフォンの音量を変えるには、お使いのスマートフォンが Bluetooth プロファイル：AVRCP に対応している必要があります。

ペアリング済みのスマートフォンを接続する

1. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。

スマートフォンと本機が無線でつながります。

※ 上記の操作で接続ができなかった場合は、スマートフォンの「デバイス」欄に表示されている「TD-07 AUDIO」をタップしてください。

メモ

[↵] (ENTER) ボタンを押しながら [⌘] (Bluetooth) ボタンを押すと、本機の Bluetooth 機能のオン/オフを切り替えることができます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

ドラム・キットをカスタマイズする (KIT EDIT)

本機では、パッドごとの音色やエフェクトの調節など、お好みに合わせてカスタマイズすることができます。

※ 本機では、変更した値は自動的に保存されるため、設定を保存する操作は必要ありません。
また、電源をオフにするときも設定が保存されます。

キット・エディット・メニュー

表示	説明	ページ
INSTRUMENT	パッドの音色を変更します。	P.13
KIT VOLUME	ドラム・キットごとの音量を調節します。	
TRANSIENT	パッドごとに音色のアタック部分やリリース部分を強調したり、抑えたりする調節をします。	P.14
PAD EQ	パッドごとの音質を調節します。	
OVERHEAD	ドラム・キット全体を收音するオーバーヘッド・マイクの効果をかけることができます。音の広がりがかたやすステレオ感を調節します。パッドごとに効果のかかり具合を設定できます。	P.15
ROOM	ドラムを演奏する場所の残響や鳴りかたを再現します。ルーム効果をかけることで、より自然で臨場感のあるドラム・サウンドが得られます。パッドごとに効果のかかり具合を設定できます。	
MTX	ドラム・キット全体にさまざまなエフェクトをかけることができます。パッドごとに効果のかかり具合を設定できます。	P.16
KIT NAME	ドラム・キットの名前を変更します。	
MIDI NOTE	パッドを叩いたときに送受信するMIDI ノート・ナンバーの設定をします。	
KIT COPY	ドラム・キットの設定をコピーします。	P.17
KIT RESET	工場出荷時のドラム・キットの設定に戻します。	

設定するパッドを選ぶ

各パッドの設定をするときは、設定するパッドを叩いて選びます。パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

メモ

- [↵] (ENTER) ボタンを押しながら [◀] [▶] ボタンを押して、設定するパッドを選ぶこともできます。
- [↵] (ENTER) ボタンを押しながら [↶] (EXIT) のボタンを押して、ヘッド側かリム側かを選ぶこともできます。

叩く場所ごとに設定をする

「H&R Link」が表示されるメニューでは、ヘッドとリムの音色などのパラメーターをセットで選ぶか (ON) 独立して選ぶか (OFF) を、切り替えることができます。

ON	ヘッドとリムのパラメーターをセットで選びます。選んだパラメーターに応じて、推奨のパラメーターがセットで選ばれます。
	※ セットで選ばれた項目で同じパラメーターがある場合は、自動的に同じ値に設定されます。 ※ 音色によっては、ヘッドとリムに同じ音色が選ばれることがあります。
OFF	ヘッドやリムで別々にパラメーターを選びます。

各パッドの音色を変更する (INSTRUMENT)

各パッドの音色や音の高さ／余韻などを調節します。

1. [F6] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「INSTRUMENT」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。
INSTRUMENT 画面が表示されます。

INSTRUMENT SN0
026 Steel S ▶

3. 設定するパッドを叩きます。
4. パッドの音色を変更するには、INSTRUMENT 画面でダイヤルを回して音色を選びます。

メモ

全音色のリスト (インスト・リスト) については、右の QR コードから『TD-07 データ・リスト』(PDF) をご覧ください。
http://roland.cm/td-07_om



5. 選んだ音色をエディットするには、[◀] [▶] ボタンで項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Level	-INF ~ +6.0dB	パッド音色の音量 (レベル)
Pan	L30 ~ CTR ~ R30	パッド音色の定位 (パン)
Tuning *1	-100 ~ +100	ヘッドのチューニング
Muffling *1	OFF, 1 ~ 9 (キック、スネア、タム) OFF, 1 ~ 19 (シンバル)	マフリング (ミュート) の設定
Head *1	CLEAR, COATED, PINSTRIPE	ヘッドの種類
Beater *1	FELT1, 2, WOOD, PLSTIC1, 2	ビーターの種類
Size *1	1.0 ~ 40.0	シンバルの直径
Fixed *1	NORMAL, FIXED1 ~ 4	ハイハットの開き具合 「NORMAL」以外を選んだ場合、ハイハット・ペダルの踏み込み量にかかわらず、ハイハットの開き具合は変化しません。

パラメーター	設定値	説明
Pitch *1	-100 ~ +100	パッド音色の音の高さ
Decay *1	1 ~ 100	パッド音色の余韻の長さ
H&R Link	ON, OFF	ヘッドとリムのパラメーターをセットで設定するか (ON) / 独立して設定するか (OFF) を、選びます。

*1: これらのパラメーターは、選ばれている音色によって設定できるものが異なります。また、クロス・スティック音には効果がありません。

6. [F6] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

ドラム・キットの音量を調節する (KIT VOLUME)

ドラム・キットごとの音量を調節します。

1. [F6] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「KIT VOLUME」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。
KIT VOLUME 画面が表示されます。

KIT VOLUME
Kit -3.0dB▶

3. [◀] [▶] ボタンで設定したい項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Kit	-INF ~ +6.0dB	ドラム・キットの音量
FootHH		ペダル・ハイハット音の音量
XStick		クロス・スティック音の音量
HH Op/Cl	-5 ~ +5	ハイハットのオープン時／クローズ時の音量バランス 値を大きくすると、ハイハットがオープンの際に演奏する音量がクローズの際に演奏する音量よりも大きくなります。 値を小さくすると、ハイハットがオープンの際に演奏する音量がクローズの際に演奏する音量よりも小さくなります。

4. [F6] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

音色のアタックとリリースを調節する (TRANSIENT)

音色のアタック部分やリリース部分を強調したり、抑えたりする調節をします。パッドごとに調節することができます。

1. [K] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「TRANSIENT」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

TRANSIENT 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを叩きます。
4. [◀] [▶] ボタンで項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
ON/OFF	ON、OFF	効果のオン／オフを切り替えます。
Time	1 ～ 10	音の立ち上がり (アタック) が変化する時間
Attack	-100 ～ 100	音の立ち上がり (アタック) の調節
Release		音の消え際 (リリース) の調節
Gain	-12.0 ～ +6.0dB	トランジェント調節後の音量
H&R Link	ON、OFF	ヘッドとリムのパラメーターをセットで設定するか (ON) / 独立して設定するか (OFF) を、選びます。

5. [D] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

パッドごとの音質を調節する (PAD EQ)

パッドごとの音質を調節します。

1. [K] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「PAD EQ」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

PAD EQ 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを叩きます。
4. [◀] [▶] ボタンで項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
ON/OFF	ON、OFF	効果のオン／オフを切り替えます。
LoFrq	20Hz ～ 1kHz	低域の基準周波数
LoGain	-15 ～ +15dB	低域の増幅／減衰量
MidQ	0.5 ～ 8.0	周波数帯の幅 値を大きくするほど幅が狭くなります。
MidFrq	20Hz ～ 16kHz	中域の基準周波数
MidGain	-15 ～ +15dB	中域の増幅／減衰量
HiFrq	1kHz ～ 16kHz	高域の基準周波数
HiGain	-15 ～ +15dB	高域の増幅／減衰量
H&R Link	ON、OFF	ヘッドとリムのパラメーターをセットで設定するか (ON) / 独立して設定するか (OFF) を、選びます。

5. [D] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

ドラム・キットのステレオ感を調節する (OVERHEAD)

ドラム・キット全体を收音するオーバーヘッド・マイクの効果をかけることができます。音の広がりかたやステレオ感を調節します。パッドごとに効果のかかり具合を設定することもできます。

1. [F5] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「OVERHEAD」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

OVERHEAD 画面が表示されます。



3. [◀] [▶] ボタンで項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
ON/OFF	ON、OFF	効果のオン／オフを切り替えます。
Type	STD-1、STD-2、WIDE、CLEAR、WARM、DRY、MILD、BRIGHT、OTHER-1 ～ 4 *1	このパラメーターを変更すると、オーバーヘッドの Level を除くすべての設定が最適な設定に変わります。 好みのテンプレートを選んでからエディットをすると、目的のサウンドに早く近づけます。
Mic	TYPE1 ～ 10	マイクの種類
Width	1 ～ 5	マイク間の距離
Level	-INF ～ +12.0dB	オーバーヘッドの音量
Send	-INF ～ +6.0dB	各パッドのオーバーヘッドのかかり具合
H&R Link	ON、OFF	ヘッドとリムのパラメーターをセットで設定するか (ON) / 独立して設定するか (OFF) を、選びます。

1：各パラメーターの設定によっては、テンプレートの名称と効果が一致しない場合があります。またテンプレートの初期値と現在の値が一致しない場合は、テンプレートの設定値に「」が表示されます。
「*」が表示された状態でテンプレートを変更した場合は、設定値が Type の初期値に戻ります。

4. [F5] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

ドラム・キットの残響音を調節する (ROOM)

ドラムを演奏する場所の残響や鳴りかたを再現します。ルーム効果をかけることで、より自然で臨場感のあるドラム・サウンドが得られます。パッドごとに効果のかかり具合を設定することもできます。

1. [F5] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「ROOM」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

ROOM 画面が表示されます。



3. [◀] [▶] ボタンで項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
ON/OFF	ON、OFF	効果のオン／オフを切り替えます。
Type	STUDIO1-1 ～ 4、STUDIO2-1 ～ 4、CLUB-1 ～ 4、STAGE-1 ～ 4、HALL-1 ～ 4	ルームの種類
Distance	0 ～ 6	ルームの残響音の距離感
Time	-64 ～ 0	ルームの残響音の時間
Level	-INF ～ +6.0dB	ルームの音量
Send	-INF ～ +6.0dB	各パッドのルームのかかり具合
H&R Link	ON、OFF	ヘッドとリムのパラメーターをセットで設定するか (ON) / 独立して設定するか (OFF) を、選びます。

4. [F5] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

ドラム・キットをカスタマイズする (KIT EDIT)

ドラム・キットにエフェクトをかける (MFX)

ドラム・キット全体にさまざまなエフェクトをかけることができます。パッドごとに効果のかかり具合を設定することもできます。

1. [MFX] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「MFX」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

MFX 画面が表示されます。



3. [◀] [▶] ボタンで項目 (パラメーター) を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
ON/OFF	ON、OFF	効果のオン/オフを切り替えます。
Type		マルチ・エフェクトの種類
MFX PRM	『データ・リスト』 (PDF) 参照	選んだマルチ・エフェクトに応じてパラメーターを設定する画面に移動します。
Level	-INF ~ +6.0dB	マルチ・エフェクトの音量
Send	-INF ~ +6.0dB	各パッドのエフェクトのかかり具合
H&R Link	ON、OFF	ヘッドとリムなどのパラメーターをセットで設定するか (ON) / 独立して設定するか (OFF) を選びます。

メモ

マルチ・エフェクト・パラメーターについては、以下のQRコードから『TD-07 データ・リスト』 (PDF) をご覧ください。

http://roland.cm/td-07_om



4. [DRUM KIT] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

ドラム・キットの名前を変更する (KIT NAME)

現在選んでいるドラム・キットの名前を変更します。

1. [MFX] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「KIT NAME」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

KIT NAME 画面が表示されます。



操作子	説明
[◀] [▶] ボタン	変更する文字にカーソルを合わせます。
ダイヤル	文字を変更します。

3. [DRUM KIT] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

MIDI ノート・ナンバーを設定する (MIDI NOTE)

現在選んでいるドラム・キットのパッドごとの MIDI ノート・ナンバーを設定します。

1. [MFX] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「MIDI NOTE」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

MIDI NOTE NO. 画面が表示されます。



3. [◀] [▶] ボタンで設定するパッドを選び、ダイヤルで設定値を変更します。

設定値	説明
0 (C-) ~ 127 (G9)	各パッドが送受信する MIDI ノート・ナンバー
OFF	ノート・メッセージを送受信しない

4. [DRUM KIT] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

メモ

外部 MIDI 機器から本機の内部音源を鳴らす場合、受信したノート・ナンバーが複数のパッドに設定されていたときは、MIDI NOTE NO. 画面で最上位に表示されるパッドが鳴ります。発音しないパッドには、ノート・ナンバーの右側に「*」が表示されます。

ドラム・キットをコピーする (KIT COPY)

ドラム・キットの設定をコピーします。

注意

コピーを実行すると、コピーする先の内容は上書きされます。

1. [F4] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [F1] [F2] ボタンで「KIT COPY」を選び、
[F3] (ENTER) ボタンを押します。
KIT COPY 画面が表示されます。

```
KIT COPY
From   Kit01▶
```

3. ダイアルで、コピー元のドラム・キットを選びます。
4. [F2] ボタンを押します。

```
KIT COPY
◀To    Kit03▶
```

5. ダイアルで、コピー先のドラム・キットを選びます。
6. [F2] ボタンを押します。

```
KIT COPY [ENTER]
◀Kit01 → Kit03
```

7. [F3] (ENTER) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。

```
Sure? CANCEL/OK
[EXIT] / [ENTER]
```

中止するときは、[F5] (EXIT) ボタンを押します。

8. [F3] (ENTER) ボタンを押します。
ドラム・キットがコピーされます。

ドラム・キットの設定をリセットする (KIT RESET)

現在選んでいるドラム・キットを工場出荷時の設定に戻します。

1. [F4] (キット・エディット) ボタンを押します。
2. [F1] [F2] ボタンで「KIT RESET」を選び、
[F3] (ENTER) ボタンを押します。
KIT RESET 画面が表示されます。

```
KIT RESET[ENTER]
01 TD-07
```

3. ダイアルで、リセットするドラム・キットを選びます。
4. [F3] (ENTER) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。

```
Sure? CANCEL/OK
[EXIT] / [ENTER]
```

中止するときは、[F5] (EXIT) ボタンを押します。

5. [F3] (ENTER) ボタンを押します。
工場出荷時のドラム・キットの設定に戻ります。

パソコンやスマートフォンのアプリと連携して使う

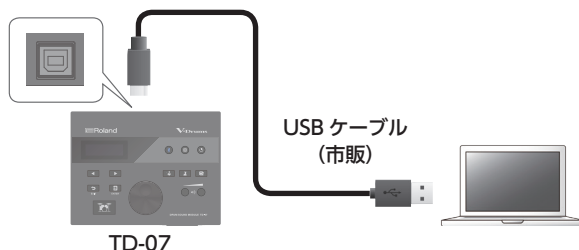
パソコンのソフトウェアと連携して使う

本機をパソコンと USB ケーブル（市販）で接続して、MIDI やオーディオの送受信ができます。

※ USB ケーブルは付属していません。パソコンの USB 端子は、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。

USB AUDIO として音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。

USB ドライバーは、パソコン上の DAW などのソフトウェアと本機との間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。



メモ

USB ドライバーのダウンロードとインストール手順については、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

USB ドライバーの設定をする

本機専用の USB ドライバーと、OS 標準のドライバーを切り替えます。

参照

「システムの設定をする」(P.24) の「USBDrv」を参照して、設定してください。

スマートフォンのアプリと連携して使う

スマートフォンなどの Bluetooth MIDI 対応アプリ（GarageBand など）と本機をつないで使うことができます。ここでは、例として iPhone を使った設定方法を紹介します。

スマートフォンを登録する（ペアリング）

1. 接続したいスマートフォンを、本機周辺に置きます。
2. [※] (Bluetooth) ボタンを押します。
3. [◀] [▶] ボタンで「BT MIDI」を選び、ダイヤルで「ON」にします。

BLUETOOTH
◀BT MIDI ON▶

メモ

本機の Bluetooth 機能がオフになっている場合はオンにしてください。[ENTER] (ENTER) ボタンを押しながら [※] (Bluetooth) ボタンを押すと、本機の Bluetooth 機能のオン/オフを切り替えることができます。

4. スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオンにします。



注意

「デバイス」欄にお使いの製品名（TD-07 など）が表示されてもタップしないでください。タップした場合は、いったんデバイス登録を解除して手順 1 からやり直してください。

5. スマートフォンのアプリを起動します。
6. スマートフォンのアプリからペアリングを開始します。

本機とスマートフォンがペアリングされます。ペアリングが完了すると、以下のように表示されます。

スマートフォン	アプリ上で「接続済み」と表示される
TD-07	画面右上に「M」と表示される

7. [D] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

詳細設定をする (SETUP)

パッドの感度調節や MIDI の設定、ファクトリー・リセットなど、本機の詳細設定をします。

セットアップ・メニュー

表示	説明	ページ
PAD	本機がパッドからの信号を確実に処理するための設定をします。パッドを叩く強さと音量のバランス（感度）などを調節することができます。	P.19
MIDI	本機の MIDI の設定をします。	P.24
SYSTEM	本機の電源や音量、ディスプレイ、USB COMPUTER 端子の入出力の設定をします。	
VERSION	本機のプログラム・バージョンを表示します。	P.25
FACTORY RESET	本機を工場出荷時の設定に戻します。	

パッドの設定をする

本機がパッドからの信号を確実に処理するための設定をします。パッドを叩く強さと音量のバランス（感度）などを調節することができます。

1. [※] (セットアップ) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「PAD」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。

PAD 画面が表示されます。



3. 設定するパッドを叩きます。
4. [◀] [▶] ボタンで設定する項目（パラメーター）を選び、ダイヤルで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Type	「PAD Type 一覧表」 (P.20) 参照	パッドの種類を設定します。ドラム・セットのパッドを拡張する場合／種類の異なるパッドに つなぎ替える場合に設定が必要になります。 ※ Type を設定すると、Sens や Threshold、ADVANCED (XtlkCancel を除く) のパラメー ターが、Type に応じた最適値に設定されます。これらは参考値ですので、パッドの取り付 けかたや使用状況に合わせて微調整してください。
Sens	1 ～ 32	パッドを叩く強さと音量のバランス（感度）を調節します。値を大きくすると感度が高くなり、 パッドを弱く叩いても大きな音で鳴ります。値を小さくすると感度が低くなり、パッドを強く叩 いても小さな音量で鳴ります。
Threshold	0 ～ 31	パッドの最低感度（スレッシュホールド）を調節します。ある一定以上の強さで叩いたときだけ発 音するように設定します。この設定で、パッドが周囲の振動を拾って誤発音することを防げ ます。 パッドを叩きながらスレッシュホールドの値を徐々に上げていきます。パッドを弱めに叩いて、音が 欠けるようであれば少し値を下げます。これを繰り返してちょうどよい設定にします。
XStickSens	OFF、1 ～ 10	クロス・スティック音とリム・ショット音が切り替わる時の叩く強さを設定します。 値を大きくすると、より弱くりム・ショットしたときもクロス・スティックの音が鳴るようになり ます。 「OFF」にすると、クロス・スティック奏法のときにもリム・ショットの音が鳴ります。
CR2Usage	CR2	ドラム・セットを拡張する場合に、専用接続ケーブルの CR2 を CR2 として使用します。 ※ドラム・セット拡張時の設定例については、「ドラム・セットを拡張する」(P.21) をご覧 ください。
	RDB	ドラム・セットを拡張する場合に、専用接続ケーブルの CR2 を RIDE BELL として使用します。 ※ドラム・セット拡張時の設定例については、「ドラム・セットを拡張する」(P.21) をご覧 ください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

詳細設定をする(SETUP)

パラメーター	設定値	説明
FootSpSens	-10 ~ +10	フット・スブラッシュの鳴りやすさを調節します。
VH Set	-	ハイハット VH-10 または VH-11 を使用する場合は、本機でオフセットの調整をします。 ハイハットのオープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要な設定です。 設定方法は、「ハイハット (VH-10 / VH-11) のオフセット調整をする」(P.21) をご覧ください。
ADVANCED	「ADVANCED の 詳細設定をする」 (P.22) 参照	パッドをより細かく調節する画面に移動します。

5. [F1] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

PAD Type 一覧表

使用するパッド	Type	リム・ ショット	ベル・ ショット	チョーク 奏法
KD-A22	KDA22	-	-	-
KD-200	KD200	-	-	-
KD-180L	KD180L	-	-	-
KD-140	KD140	-	-	-
KD-120	KD120	-	-	-
KD-85	KD85	-	-	-
KD-10	KD10	-	-	-
KD-9	KD9	-	-	-
KD-8	KD8	-	-	-
KD-7	KD7	-	-	-
KD-2	*1 KD2	-	-	-
KT-10	KT10	-	-	-
KT-9	KT9	-	-	-
PDA120L	PDA120L	✓	-	-
PDA100L	PDA100L	✓	-	-
PD-128	PD128	✓	-	-
PD-125X	PD125X	✓	-	-
PD-125	PD125	✓	-	-
PD-108	PD108	✓	-	-
PD-105X	PD105X	✓	-	-
PD-105	PD105	✓	-	-
PD-85	PD85	✓	-	-
PDX-100	PDX100	✓	-	-
PDX-12	PDX12	✓	-	-
PDX-8	PDX8	✓	-	-
PDX-6	PDX6	✓	-	-
PD-8	PD8	✓	-	✓

使用するパッド	Type	リム・ ショット	ベル・ ショット	チョーク 奏法
VH-11	VH11	✓	-	✓
VH-10	VH10	✓	-	✓
CY-16R-T	CY16RT	✓	✓	✓
CY-15R	CY15R	✓	✓	✓
CY-14C-T	CY14CT	✓	-	✓
CY-14C	CY14C	✓	-	✓
CY-13R	CY13R	✓	✓	✓
CY-12C	CY12C	✓	-	✓
CY-12R/C	CY12R/C	✓	✓	✓
CY-8	CY8	✓	-	✓
CY-5	CY5	✓	-	✓
BT-1	BT1	-	-	-
	BT1 SENS *2	-	-	-
RT-30K	RT30K	-	-	-
RT-30HR	RT30HR	✓	-	-
RT-30H	RT30H SN *3	-	-	-
	RT30H TM *4	-	-	-
RT-10K	RT10K	-	-	-
RT-10S	RT10S	✓	-	-
RT-10T	RT10T	-	-	-

*1：TD-07DMK のキック・パッドです。

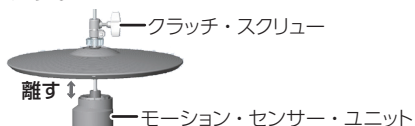
*2：BT-1 使用時に、より弱打の感度を向上させることができますが、周囲からの振動などで誤発音しやすくなります。

*3：RT-30H をスネアに取り付けたときに選びます。

*4：RT-30H をタムに取り付けたときに選びます。

ハイハット (VH-10 / VH-11) のオフセット調整をする

1. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、本機の電源を入れます。



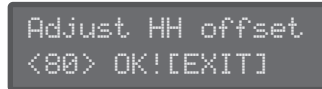
2. ハイハットのクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
3. [☆] (セットアップ) ボタンを押します。
4. [◀] [▶] ボタンで「PAD」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
5. ハイハットを叩いてパッドを選びます。
6. [◀] [▶] ボタンで「Type」を選び、ダイヤルでお使いのハイハット (VH-10 または VH-11) を選びます。



7. [◀] [▶] ボタンで「VH Set」を選び、[ENTER] ボタンを押します。



8. 画面に「Turn screw L」と表示されている場合はオフセット調整ネジを反時計回りに、「Turn screw R」と表示されている場合は時計回りに回します。
画面左下に表示されている値が 80 前後になり、「OK!」と表示されれば調整完了です。



9. ハイハットがお好みの開き具合になるように、クラッチ・スクリューをとめます。
10. [DR] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

ドラム・セットを拡張する

クラッシュ・シンバルを追加する場合

TD-07KV に、別売のシンバル (CY-8) を「クラッシュ・シンバル 2」(CR2) として追加し、別売のシンバル・マウント (MDY-Standard) を使用したセッティング例です。



CR2 (CY-8) の設定

1. 追加した CY-8 に、専用接続ケーブルの「CR2」を接続します。
2. 「パッドの設定をする」(P.19) を参照して、CR2 の PAD Type を「CY8」に、CR2Usage を「CR2」に設定します。
これで設定は完了です。

ライド・シンバル (CY-8) を CY-13R に代える場合

TD-07KV で、ライド・シンバル (CY-8) を別売の CY-13R に代えたセッティング例です。



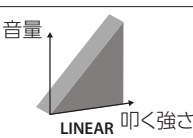
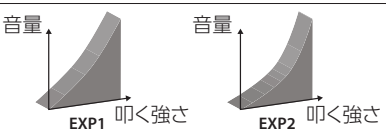
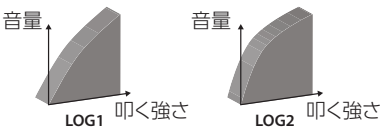
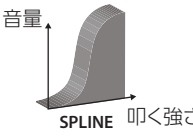
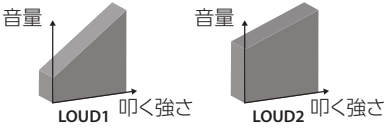
※この場合、CR2 のパッドは接続できません。

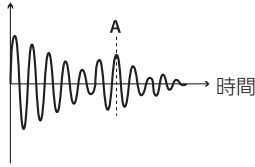
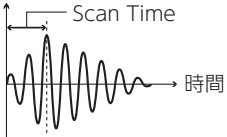
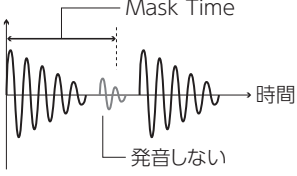
RIDE (CY-13R) の設定

1. CY-13R の BOW/EDGE OUTPUT 端子に専用接続ケーブルの「RD」、BELL OUTPUT 端子に専用接続ケーブルの「CR2」を接続します。
2. 「パッドの設定をする」(P.19) を参照して、RD の PAD Type を「CY13R」に、CR2Usage を「RDB」に設定します。
これで設定は完了です。

詳細設定をする(SETUP)

ADVANCED の詳細設定をする

パラメーター	設定値	説明
Curve	パッドの叩く強さに対する音量変化	
	LINEAR	 標準的な設定です。叩く強さと音量の変化が最も自然になります。
	EXP1、EXP2	 「LINEAR」に比べ、強めに叩くときの音量変化が大きくなります。
	LOG1、LOG2	 「LINEAR」に比べ、弱めに叩くときの音量変化が大きくなります。
	SPLINE	 叩く強さによる音量変化が極端につきます。
	LOUD1、LOUD2	 叩く強さによる音量変化が少なく、演奏しやすい音量が保てます。ドラム・トリガーを利用するときなど、安定した発音が得られます。
RimGain	0 ～ 3.2	リムやエッジを叩く強さと音の大きさのバランスを調節します。 値を大きくすると、リムを弱く叩いても大きな音量で鳴ります。値を小さくすると、リムを強く叩いても小さな音量で鳴ります。
H/R Adjust *1	0 ～ 80	ヘッド・ショットとリム・ショットの鳴りやすさ ヘッド・ショットをしたときにリムの音が鳴ってしまう場合は、値を大きくします。 リム・ショットをしたときにヘッドの音が鳴ってしまう場合は、値を小さくします。 メモ ヘッド・ショットをしたときにリム・ショットの音が鳴る場合や、リム・ショットをしたときにヘッド・ショットの音が鳴る場合は、H/R Adjust の値を少しずつ変更し、効果を確認しながら値を設定してください。 極端な値に設定すると、ヘッド・ショット時にリム・ショットの音が出るなど、演奏とは異なる音が鳴ってしまいます。

パラメーター	設定値	説明
Retrg Cancel	1 ~ 16	トリガー信号の減衰検出 (リトリガー・キャンセル) 市販のドラム・トリガーを取り付けたスネア・ドラムなどを叩いたときに、波形が乱れているため次の図の A 点でも誤って発音してしまうことがあります (リトリガー)。 この現象は特に波形の消え際で起こりやすいものです。リトリガー・キャンセルは、この波形の乱れを検出して、リトリガーが起これないようにします。 パッドを叩きながら、リトリガーしなくなるまでリトリガー・キャンセルの値を上げます。 値を大きくするとリトリガーしなくなりますが、速く連打したときに音が抜けやすくなります。リトリガーが起これないことを確認しながら、できるだけ小さい値に設定してください。 メモ マスク・タイムでもこのような 2 度鳴りの症状が出ないようにすることができます。マスク・タイムがトリガー信号を受信してから設定した時間内は次のトリガー信号を検出しないのに対して、リトリガー・キャンセルはトリガー信号レベルの減衰を検出し、打撃されたときのトリガー信号か、鳴らすべきでないトリガー信号かを判別します。 
XtlkCancel	1 ~ 80	同じスタンドにパッド (またはドラム・トリガーを取り付けたアコースティック・ドラム) を複数取り付けたとき、叩いた振動で、他のパッド (またはドラム・トリガー) が誤発音 (クロストーク) するのを防ぎます。たとえば、パッド A を叩いたときにパッド B が誤発音してしまうときは、パッド B の XtlkCancel 値を大きくして、クロストークがなくなるように調節します。値をあまり大きくすると、パッド A とパッド B を同時に叩いたときに、パッド B の音が抜けやすくなります。
ScanTime	0 ~ 4.0ms	トリガー信号の検出時間 (スキャン・タイム) ドラム・パッドの種類やドラム・トリガー固有の性質により、トリガー信号波形の立ち上がり時間が微妙に異なるため、同じ強さで叩いても弱く鳴ったり、強く鳴ったりすることがあります。このような場合に、トリガー信号の検出時間 (スキャン・タイム) を調節することで、叩いた強さを正確に検出することができます。 パッドを同じ強さで叩きながらスキャン・タイムの値を「0」から徐々に上げていき、一番大きな音量で安定して発音する値にします。その値で強弱をつけてパッドを叩き、適切な音量変化が得られることも確認してください。 ※ 値を大きくすると発音までの時間が長くなります。できるだけ小さい値に設定してください。 
MaskTime	0 ~ 64ms	2 度鳴りの防止 (マスク・タイム) 特にキック・トリガーで、鳴らした直後に再度ビーターがヘッドに触れると、ダブル・トリガー (1 度鳴らすつもりなのに 2 度鳴ってしまう) の原因になります。マスク・タイムはこれを防ぐための機能で、設定した時間内に再度起こったトリガー信号を無視します。 パッドを叩きながらマスク・タイムの値を調節します。 キック・トリガーの場合はキック・ペダルを踏みながら、バウンスing (ビーターの跳ね返りによる発音) しなくなるまでマスク・タイムの値を上げます。 値を大きくすると、速く連打したときに音が抜けやすくなります。できるだけ小さい値に設定してください。 メモ パッドを 1 度しか叩いていないのに 2 度以上音が鳴ってしまうときは、リトリガー・キャンセルを調節してください。 

*1 : PAD Type によっては設定できません。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

詳細設定をする (SETUP)

MIDI の設定をする

本機の MIDI の設定をします。

1. [✳] (セットアップ) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「MIDI」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。
3. [◀] [▶] ボタンで設定したい項目 (パラメーター) を選び、値をダイヤルで変更します。

パラメーター	設定値	説明
Channel	1 ~ 16Ch	送受信チャンネル
Tx/Rx Sw	OFF, ON	MIDI データ送受信のオン/オフ
ProgChg Tx	OFF, ON	プログラム・チェンジの送信のオン/オフ
ProgChg Rx	OFF, ON	プログラム・チェンジの受信のオン/オフ
Local Ctrl	OFF, ON	パッドの演奏情報を本機の音源部に送る (ON) / 送らない (OFF) を設定します。 通常は「ON」にしておきます。「OFF」にすると、パッドの演奏情報は本機の音源部に接続されません。
Choke Shot	OFF, ON	チョークしながらパッドを打撃する奏法をしたときの設定をします。 「ON」のときは、チョークしながら打撃すると発音後すぐにミュートされます。「OFF」のときは、チョークしながら打撃しても、発音後すぐにはミュートされません。
Device ID	17 ~ 32	デバイス ID の設定 この設定は、2 台以上の TD-07 に別々のデータを同時に送信するときだけに必要な設定です。それ以外の場合は、設定を変更しないでください。
SysEx Tx	OFF, ON	本体の設定変更を、システム・エクスクルーシブ・メッセージとして送信する (ON) / 送信しない (OFF) を設定します。
SysEx Rx	OFF, ON	システム・エクスクルーシブ・メッセージを受信する (ON) / 受信しない (OFF) を設定します。

4. [🥁] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

システムの設定をする

本機の電源や音量、ディスプレイ、USB COMPUTER 端子の入出力の設定をします。

1. [✳] (セットアップ) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「SYSTEM」を選び、[↵] (ENTER) ボタンを押します。
3. [◀] [▶] ボタンで設定したい項目 (パラメーター) を選び、値をダイヤルで変更します。

パラメーター	設定値	説明
LCDContrast	1 ~ 16	ディスプレイの明るさを調節します。
USB In	-36 ~ +12dB	USB COMPUTER 端子に入力される、USB オーディオの入力レベルを調節します。
USB Out	-24 ~ +24dB	USB COMPUTER 端子から出力される、USB オーディオの出力レベルを調節します。
USBDrv	GENERIC, VENDOR	USB ドライバーのモードを変更します。OS 標準のドライバを使用する場合は「GENERIC」、ローランドが提供している本機専用のドライバを使用する場合は、「VENDOR」に設定します。 ※ 設定値を変更すると、本機の電源を入れ直すとは有効になります。
Earplugs	OFF, ON	「ON」にすると、ドラム演奏の音量が小さくなります。お子様が使用するときなど、大きな音量で耳を傷めないように気を付けたい場合は、「ON」にしておくことをお勧めします。
AutoOff	OFF, 10MINS, 30MINS, 4HOURS	設定した時間 (10 分 / 30 分 / 4 時間) 以内にパッドを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。 「OFF」に設定すると、電源は自動的に切れません。

4. [🥁] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

バージョン情報を表示させる

本機のプログラム・バージョンを表示します。
新しいシステム・プログラムが公開された場合は、アップデートすることが出来ます。詳細は以下の URL からご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>
製品名入力→「アップデーター&ドライバー」参照

1. [☆] (セットアップ) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「VERSION」を選び、
[↵] (ENTER) ボタンを押します。
本機のバージョン情報が表示されます。
3. [D] (ドラム・キット) ボタンを押して、ドラム・キット画面に戻ります。

工場出荷時の設定に戻す

本機に記憶されている設定を、工場出荷時の状態に戻します。これを「ファクトリー・リセット」と呼びます。

注意

ファクトリー・リセットを実行すると、本機に記憶されている設定はすべて消去されます。

1. [☆] (セットアップ) ボタンを押します。
2. [◀] [▶] ボタンで「FACTORY RESET」を選び、
[↵] (ENTER) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。

Sure? CANCEL/OK
[EXIT] / [ENTER]

中止するときは、[↶] (EXIT) ボタンを押します。

3. [↵] (ENTER) ボタンを押します。
ファクトリー・リセットが実行されます。

Completed!

故障かな?と思ったら

症状	確認事項	対策	ページ
音に関するトラブル			
音が出ない／音が小さい	本機とアンプ内蔵スピーカー／ヘッドホンを正しく接続していますか？	アンプ内蔵スピーカーやヘッドホンは、本機の OUTPUT/PHONES 端子に接続してください。	P.6
		アンプ内蔵スピーカーを接続する場合は、アンプ内蔵スピーカーの入力端子に接続してください。	-
	本機底面の TRIGGER INPUT 端子に専用接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	『セットアップ・ガイド』
	ヘッドホンまたはアンプ内蔵スピーカーのオーディオ・ケーブルが断線していませんか？	ケーブルを交換してください。	-
	接続しているアンプ内蔵スピーカーから音が出ない場合、ヘッドホンをつなぐと音が出ていますか？	音が出るようであれば、アンプ内蔵スピーカーの接続ケーブルが断線しているか、接続しているアンプ内蔵スピーカーに原因があります。接続している機器やケーブルを確認してください。	-
	本機の音量が下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	-
	接続しているアンプ内蔵スピーカーの音量が下がっていませんか？		
	MIX IN 端子や Bluetooth で接続したスマートフォンなどの音量が下がっていませんか？		
特定のパッドの音が出ない	各パッドにケーブルが正しく接続されていますか？	各パッドに対応したラベルのあるケーブルを接続してください。	『セットアップ・ガイド』
	パッドの感度が下がっていませんか？	パッドの感度 (Sens) を調節してください。	P.19
	パッドを拡張した場合や種類の異なるパッドにつなぎ替えた場合は、パッドの種類が正しく設定されていますか？	パッドの種類 (Type) を設定してください。	
キック・ペダルを踏んでも音が出ない	キック・パッドに KIK のラベルのあるケーブルが接続されていますか？	接続を確認してください。	『セットアップ・ガイド』
ハイハット・ペダルを踏んでも音が出ない	ハイハット・ペダルに HHC のラベルのあるケーブルが接続されていますか？		
パッドを叩くと、他のパッドの音も鳴ってしまう	同じスタンドに複数のパッドを取り付けると、叩いた振動が他のパッドにも伝わり、誤発音することがあります。	以下の点に注意し、取り付け位置を変更してください。 - パッド同士がぶつからないように、距離を離してセッティングする - パッドの取り付けノブをしっかりと締め付けて、スタンドに取り付ける モニター・スピーカーからの音の影響で誤発音してしまう場合があります。 - パッドをスピーカーから離して設置する - パッドに角度を付けて、音の影響を受けにくい場所にセッティングする - パッドの最低感度 (Threshold) の値を大きくする (P.19)	-
1 度叩くと、2 回以上音が鳴る	スタンドにしっかりと固定していますか？	パッドをスタンドにしっかりと固定してください。また、RetrigCancel を設定してください。	P.23
音の鳴りかたが不安定	スネアとタムのメッシュ・ヘッドは均一に張られていますか？	メッシュ・ヘッドの張り具合を調節してください。パッドのチューニング・ボルトをドラム・キーで調節します。張りをやや強くすると鳴りかたが安定します。	『セットアップ・ガイド』

USB に関するトラブル			
パソコンと接続できない	USB ケーブルは正しく接続されていますか?	接続を確認してください。	P.18
	USB AUDIO として音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。	パソコンに USB ドライバーをインストールしてください。	P.18
	USB 2.0 対応のケーブルを使用していますか?	USB 3.0 対応のケーブルは使用できません。USB 2.0 対応のケーブルを使用してください。	-
	Driver Mode は正しく設定されていますか?	使いかたに応じて変更してください。	P.24
MIDI に関するトラブル			
外部 MIDI 機器の音が出ない	MIDI チャンネルは合っていますか?	本機とMIDI機器のチャンネルを合わせてください。	P.24
	ノート・ナンバーは合っていますか?	パッドのノート・ナンバーを確認してください。	P.16

Bluetooth 機能に関するトラブル

症状	確認事項／対策	ページ
スマートフォンに、「TD-07」が表示されない	本機の Bluetooth 機能が「OFF」になっていませんか? 本機の Bluetooth 機能を「ON」にしてください。 [※] (BLUETOOTH) → [▶] [ON/OFF] → ダイヤル (ON) Bluetooth オーディオ機能： ペアリングを開始 ([🔍] (ENTER) ボタン) すると、スマートフォンに「TD-07 AUDIO」というデバイス名が表示されます。 Bluetooth MIDI 機能： [※] (BLUETOOTH) → [▶] [BT MIDI] → ダイヤル (ON) Bluetooth MIDI 対応のアプリ (GarageBand など) の設定から、ペアリングを開始します。	P.11 P.18
Bluetooth オーディオに接続できない	スマートフォンの Bluetooth デバイス欄に「TD-07 AUDIO」が表示されている場合	スマートフォンの設定で、Bluetooth デバイス「TD-07 AUDIO」の登録を一度解除してから、Bluetooth 機能をオフ → オンにして、ペアリングし直してください。
	スマートフォンの Bluetooth デバイス欄に「TD-07 AUDIO」が表示されていない場合	スマートフォンの設定で、Bluetooth 機能をオフ → オンにしてから、本機からペアリングを開始し、ペアリングし直してください。
Bluetooth MIDI に接続できない	Bluetooth MIDI 機能は、スマートフォンの Bluetooth 設定ではなく、Bluetooth MIDI 対応のアプリ内 (GarageBand など) の設定で「TD-07 MIDI」を選んでペアリングします。スマートフォンの Bluetooth デバイス欄に「TD-07 MIDI」が表示されてもタップしないでください。タップした場合は、「TD-07 MIDI」を解除してから Bluetooth 機能をオフ → オンにして、接続し直してください。	-
ペアリングしたスマートフォンがつかない	接続してもすぐに切れてしまうときは、スマートフォンの Bluetooth 機能を一度オフにして再度オンにすると、接続される場合があります。	-
スマートフォンと複数台ある中の TD-07 をペアリングできない	本機が複数台ある場所でスマートフォンとペアリングする場合は、各機器に ID (識別番号) を設定することができます。Device ID を設定すると、スマートフォンに表示されるデバイス名の末尾に設定した数字が付きます。(例:「TD-07 AUDIO 1」「TD-07 MIDI 1」など) [※] (BLUETOOTH) → [▶] [BT ID] → ダイヤル (1 ~ 99) → [🔍] (DRUM KIT) ※ Device ID は、BLUETOOTH 画面から抜けると有効になります。	-

安全上のご注意

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.24)。



付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



警告

付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



使用上のご注意

電源について

- AC アダプターは、文字が表示された面が下になるように設置してください。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押ししたり、叩いたりしないでください。
- 本機は、演奏時の打撃音を小さくする設計になっていますが、床や壁を通じての振動は意外によく伝わります。特にヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑がかけられないように注意しましょう。
- 打面部のゴム部品には、性能維持のために劣化防止剤などを塗布してあります。時間経過に伴い、これらの添加剤が表面に現れて、白く汚れたように見えたり、製品検査時のスティック痕が見えたりする場合がありますが、製品の性能や機能には影響ありませんので、安心してお使いください。
- ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上影響はありません。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

電波に関する注意

- 以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解 / 改造する
 - 本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
 - 本製品を購入した国以外で使用する

- 本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) や特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)、アマチュア無線局 (免許を要する無線局) が運用されています。
- 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して、万一、本機が原因と思われる有害な電波干渉の事例が発生した場合には、電波の発射を停止した上で、混信回避のための処置等 (たとえば、パーティションの設置など) についてローランドお客様相談センターにご相談ください。
- その他、発生した問題についてお困りの場合も、ローランドお客様相談センターにご相談ください。
 - ※ ローランドお客様相談センターへの連絡につきましては、取扱説明書などに記載の「お問い合わせの窓口」をご覧ください。
- 認証取得済みの特定無線設備を搭載しています。

知的財産権について

- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど) の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (ただしデモ曲などの楽曲データは除く) を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム (www.tron.org) の T-License 2.0 に基づき μ T-Kernel ソースコードを利用しています。
- Roland、V-Drums は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。

主な仕様

ローランド TD-07 : ドラム・サウンド・モジュール

ドラム・キット数	50 (プリセット:20以上)
音色数	143
エフェクト	パッド・イコライザー (パッドごと) オーバーヘッド・マイク・シミュレーター ルーム マルチ・エフェクト:1系統、30種類
Bluetooth	対応規格=Bluetooth標準規格Ver 4.2、対応プロファイル=A2DP (オーディオ) GATT (MIDI over Bluetooth Low Energy)、 対応コーデック=SBC (SCMS-T方式によるコンテンツ保護に対応)
ディスプレイ	16文字2行キャラクターLCD (バックライト付き)
電源	ACアダプター (DC12V)
消費電流	250mA
外形寸法	185 (幅) × 36 (奥行) × 177 (高さ) mm
質量 (ACアダプターを除く)	407g
付属品	セットアップ・ガイド 取扱説明書 『安全上のご注意』 チラシ AC アダプター 保証書 ローランド ユーザー登録カード
別売品	追加クラッシュ・シンバル (クラッシュ 2) : CY-8、MDY-Standard ※ 1 パーソナル・ドラム・モニター : PM シリーズ Vドラム・アクセサリ・パッケージ : DAP-3X Vドラム・マット : TDM シリーズ ノイズ・イーター : NE シリーズ ※ 1 : CY-8 の取り付けには、MDY-Standard が必要です。

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

お問い合わせの窓口



ホームページからのお問い合わせ

Q&A、チャットサポート、メールでお問い合わせ

Roland製品

http://roland.cm/roland_support

BOSS製品

http://roland.cm/boss_support



電話でのお問い合わせ

ローランドお客様相談センター

050-3000-9230

電話受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00

(祝日および弊社規定の休日を除く)

'20. 04. 01 現在

ローランド株式会社

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川2036-1

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

